
巻頭言

「新たな飛翔に向けたこの5年間の振り返り」

公益社団法人日本防犯設備協会 常任理事

株式会社東芝 経営企画部 経営戦略室 官公庁渉外担当 部長

子安 信彦



2018年6月に常任理事を拝命してから早いもので5年が経過しました。今回、2019年陽春号、2021年陽春号に続き3回目の寄稿となりますが、この5年間の振り返らせていただきます。

2019年陽春号では、ラグビーワールドカップ2019、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を控え、訪日外国人の数が増加し、様々な形での犯罪の増加が懸念されるため、協会活動の重要性が増していくと記載しました。他方、2020年初めからの新型コロナウイルス感染拡大を受け、厳しい状況が続き、海外との往来が制限され、オリンピック・パラリンピック等大きなイベントが延期または中止されました。

2021年陽春号では、コロナ禍における働き方の変化について触れました。在宅勤務の徹底化が図られ、在宅勤務の効果を上げるために、Teams等のプラットフォームを使用した、オンライン会議が一般化されました。また自分自身に関して、在宅勤務に伴い、運動量が激減するリスク対策として、早朝散歩を習慣としたことを触れました。

さて、前回寄稿後、2022年に入ると、世の中はコロナと共存した仕事のスタイルや生活様式を確立していききました。更に、2023年に入り、世の中が漸く正常化したことを皆様も実感されたと思います。

5月には新型コロナが5類に移行され、制限無くコロナ以前の生活を送ることができるようになりました。協会活動としても、1月の新年賀詞交歓会、6月の通常総会および懇親会が久しぶりにリアルで開催されました。新年賀詞交歓会・通常総会後の懇親会では乾杯の音頭をとらせていただきました、大勢の出席者の皆様と久しぶりに

お会いすることができ、世の中が正常化されたことを実感することができました。6月の通常総会では、防犯活動に長年貢献されてきた方々への表彰式が併せて開催されましたが、コロナ禍でも継続して・地道に活動されてきた皆様への畏敬の念を改めて抱く機会となりました。

私自身も、2023年に入り出社・外出の機会がほぼコロナ前の状態に戻りましたが、コロナ禍で定着したオンライン会議を活用しながら、在宅勤務も可能な範囲で引き続き実施しています。また、プライベートでは久しくできていなかったことを再開しました。例えば、国内旅行を再開しました。3月には、G7広島サミットの会場となった広島県（ちょっと山口県にも）を旅行しました。尾道市内、しまなみ海道の島々、広島市内、宮島、山口県の錦帯橋と廻り、山陽地方の豊かな自然、豊かな文化、美味しい食事を堪能しました。G7首脳が視察された原爆ドーム・原爆死没者慰霊碑にも早朝赴き、静けさの中黙とうを捧げることができました。G7広島サミットを通じて、平和の尊さを再認識された方々が多かったのではないかと思います。また、G7広島サミット期間中に、G7首脳以外にもウクライナからゼレンスキー大統領等が来日され、警備の大変さ・防犯の重要性を認識された方々も多かったと思います。

最後になりますが、世の中が正常化し、訪日外国人数が再び増加し、様々な形での犯罪の増加が懸念される中、協会活動の重要性が増していきます。コロナ禍において推進した防犯設備養成講習・資格認定試験のIT化を通じて受験生が増えることが期待されます。協会活動の活性化のために、私自身も出来るだけのことをしていきたいと思います。引き続き宜しくお願い申し上げます。